

書体に挑戦、自在な創意

盛岡二高部 盛岡二高部 盛岡二高部 きょうまでおでって

盛岡二高書道部展が30日から2日間の日程で盛岡市中ノ橋通1丁目のプラザおでってギャラリーで開かれている。1年生8人、2年生8人、3年生4人と指導にあたる書道家の吉田晨風さんが30点余りの力作を展示した。努力の跡がうかがえる臨書の大作の他、それぞれが好む書体で思い

を込め、自由に創作した書も目を引く。
大宮青空さん(3年)の「中務集 臨書」は流麗な仮名文字の大作で、7月に佐賀県で開かれた全国高総文祭にも出品。有坂真希さん(3年)の「本阿弥切臨書」は今年の産経書道ジュニアコンクール



力作が並ぶ盛岡二高の書道部展

で産経国際書会理事長賞に輝いた。
部長の川上茅帆さん(2年)は「書けは書くほど、書体の特徴が分かるようになり、気持ちも表現していけるのが魅力。互いに励まし合ってさらにいい作品を目指したい」と意欲を燃やしていた。

この写真と記事は盛岡タイムス社の許諾を得て転載しています。